

21/3/2 名古屋市会経済水道委員会（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

江上博之（共産・中川区）：今文化庁への宿題の問題であの質問させていただいて、これ調査実施状況ということで終了したんですが、文化庁には、調査が終了しただけの報告では駄目で、当然どういうふうを考えているかということをもってくと思うんですが、これ年度内に持っていくという理解で考え方をですね、そういう理解でよろしいんですか。

天守閣整備担当主幹荒川：文化庁からは「考古学的視点からの調査検討と工学的視点からの検討を突き合わせ、総合的な視点から特別史跡石垣等遺構への影響評価を行い、当該各種調査検討結果を踏まえて適切な解体・仮設物設置計画を策定すべき」とのご指摘をいただいております。今後地元有識者、文化庁とご相談しながら考古学的調査結果を踏まえて、遺構への影響について工学的視点からの検討を行い、必要に応じて仮設物設置計画の見直し等を検討してまいります。

江上博之（共産・中川区）：うん、していくことはわかったんだけど、年度内補正の話ですからね、年度内にどこまでいくのかということの確認で言っとるんですけども。文化庁に持っていくのは来年度だとすればですね、今年度中にこの調査をした上で、いろいろ調査が終了したということなんだから、これに対するどういう考え方を市としては持ちましたよと、こういうことは決めてくんじゃないかと思うんですが、そういう理解でいいですかということをお願いするんですけど。

天守閣整備担当主幹荒川：調査が概ね終わってきた段階でございますので、こちらのものを工学的な検討の方に反映させた上で、一度文化庁の方にご相談に入っていくというような段階になろうかと思っております。

江上博之（共産・中川区）：そうすると文化庁への宿題を持ってくるというのは来年度だとしてもですね、今年度中にこの宿題について、名古屋市の考え方を決めてしまうと、そういう段階ではないということですか。

名古屋城総合事務所長佐治：今担当の主幹が申し上げましたが、今年度中に名古屋市の考え方を整理しまして、具体的にはその考古学的なその発見とかいろんな事実に対しまして工学的な検証を加えたもので、必要があれば解体のその仮設工事の設置計画の見直しも含めた形でそれを有識者会議に諮って、ご了承いただいた上で4月に文化庁に提出するという、そういう目標で今頑張ってるところでございます。

江上博之（共産・中川区）：まあ、考え方はわかりました。

その上で結局、現時点でもですね、石垣の保全方針とかあるいは木造天守を支える基礎構造どうあるべきか、こういうことについてはまだ検討が進んでいないと、そういう理解でいいですか。

天守閣整備担当主幹荒川：現在検討を進めているところでございます。

江上博之（共産・中川区）：従って、補正予算で繰越の予定についてお聞きしましたけれども、この繰越がなされたからといって、今の検討がすぐさまなるとかそういう問題ではないということでしょうか。

天守閣整備担当主幹荒川：あの、現在あの、それぞれ進めておりますので、今回の繰越これも含めてそういったものに反映していくということになります。

江上博之（共産・中川区）：どちらにいたしましてもね、進めるという期限ももう結局が決まらないままだし、今石垣保全の方針の問題、あるいは基礎構造、そういう問題についてまだ手についていない。ましてやそもそもという議論が私は持っています。そういう点ではですねこのあり方については見直しが必要だということだけ申し上げておきます。